

マスト細胞の表面で抗原とIgEが結合すると抗原抗体反応がおき、マスト細胞からヒスタミンやロイコトリエンなどの化学伝達物質が放出されます。

この化学伝達物質が知覚神経や鼻腺、血管を刺激することで、くしゃみ、水様性鼻漏、鼻閉、嗅覚障害といった症状が起こります。鼻鏡で観察しますと鼻粘膜が発赤ないし蒼白へ色調変化を起こすのがアレルギー性鼻炎の特徴であり、肉眼で直接その様子を観察し適切な診断を下せるのが耳鼻咽喉科医の強みとも言えるでしょう。(図)



(図)
アレルギー性鼻炎の
鼻内所見

下鼻甲粘膜の色調が蒼白に変化し浮腫を認める。
総鼻道に漿液性鼻汁の付着も認める。

治療は抗原の除去、回避が治療の第一歩となり、外出する際は眼鏡やマスクを装着するように指導します。対症療法としては症状の種類や程度に応じて薬剤を使い分けます。具体的には軽くくしゃみ、水様性鼻漏であれば抗ヒスタミン薬内服のみとし、鼻閉が主症状であれば抗ロイコトリエン薬内服、症状が重度の場合や複合する場合はステロイド点鼻薬を組み合わせます。他にも外科的治療や減感作療法などがあり、当科では患者さまの症状やご要望に応じてオーダーメイドな治療を提供しております。

今年も新型コロナウイルス感染症が流行しております。くしゃみ、水様性鼻漏、鼻閉、嗅覚障害は新型コロナウイルス感染症でもみられることがあり、花粉症の症状があると自身がウイルスに感染しているのかわかりにくくなってしまいます。花粉症では眼や鼻の掻痒感を伴うことが新型コロナウイルス感染症との差異であり、鼻粘膜に起こるアレルギー反応を肉眼で観察することでもある程度は鑑別できます。自身と周りの方を守るためにも、新型コロナウイルスが流行して

いる今シーズンは花粉症が本格化する前に、当院 耳鼻咽喉科へご紹介していただくよう、よろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染症終息に関して

この度、当院における新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、地域の医療機関の先生方には、ご心配とご迷惑をお掛けいたしました。

3月1日より通常診療の再開にあたって、職員一同、健康管理と徹底した感染防止策を実施し、安心して患者さまをご紹介いただけるように信頼回復に努めてまいります。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

第一東和会病院 病院長 田中 源重

第一東和会病院・第二東和会病院 地域連携室

TEL 072-671-1118 (第一)

FAX 072-671-1090 (第一)

受付時間 (第一)

平日 8:30~19:00

土曜 8:30~17:00

時間外休日

072-671-1008 (代表)

E-mail renkei@towa-med.or.jp



All you need is love ...

発行日 2021年 2月
第6巻 第11号



TOWA ~架け橋~

Monthly NEWS

連携診療所向け月刊情報誌

輪
わ

花粉症シーズン到来

~新型コロナウイルス感染症流行期の花粉症対策~

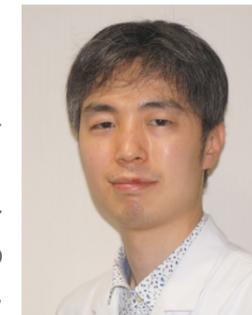
第一東和会病院 耳鼻咽喉科部長
耳鼻咽喉科専門医 栗山 達朗

今年も花粉症のシーズンがやってまいりました。本記事を執筆している2月中旬時点で関西でもスギ花粉が微量ながら検出されております。諸先生方の外来にも花粉症の患者さまがそろそろ来院されているのではないのでしょうか。

今年花粉の飛散量は昨年よりも多いとの予想であり、また新型コロナウイルス感染症への対応も並行せねばならず、先生方におかれましては続々とお越しになる患者さまの対応に苦慮されていることと存じます。

花粉症には流行時期があり、2月前半から春先まではスギ、春はヒノキ、夏にはイネ、秋にはブタクサ等の雑草系花粉が多く飛散します。症状の出現時期から自分がどのアレルギーなのかある程度推測することは可能ですが、多種類のアレルギーを持っていると花粉症対策を行うべき時期がいつなのかがよくわからなくなります。当科では希望される患者さまにRAST検査(血液検査)を行うことで、シーズン前からの治療や花粉症対策の指導を行っております。

花粉症またはアレルギー性鼻炎は、鼻粘膜におけるI型アレルギー性疾患であり、花粉やハウスダストなどの抗原を吸入すると、マスト細胞が粘膜内に侵入した抗原を貪食し抗原提示をおこないます。



撮影者：医局長 兼
内視鏡外科センター副部長
千野 佳秀

目次

Page
花粉症シーズン到来
~新型コロナウイルス感染症
流行期の花粉症対策~...1・2